碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

14年　4月　（352号）

発行者　千葉岳関
編集者　白井岳麗

14年　4月現在	会員数
逗子地区	123名
葉山地区	180名
大船地区	23名
（合計）	326名）

行事予定

○横須賀第二地区吟行会
日　時・6月2日(土)～6月3日(日)
会　場・愛知県三河湾三ヶ根温泉

○神奈川地区吟道大会
日　時・6月23日(日)
会　場・川崎市教育文化会館

○碩心会総会
日　時・6月16日(日)
会　場・逗子市図書館講座室

○碩心会夏季吟道講座
日　時・7月21日(日)
会　場・逗子市図書館ホール

○総本部夏季吟道講座
日　時・7月27日(土)、7月28日(日)
会　場・基礎ー九段会館ホール
　　応用ー日本教育会館

○県本部指導者吟道講座
日　時・8月11日(日)
会　場・エポック中原

○横須賀第二地区吟道大会
日　時・8月18日(日)
会　場・衣笠はまゆう会館

平成14年春季 審査会講評

去る3月24日(日)、昇段審査会が逗子図書館ホールに於て行なわれました。

当日48名の方が受審して、全員が合格されました。終了後に担当の先生方から左記の懇切な講評がありました。

加藤岳相先生

幼年の部で6才の広瀬君が受講し「海南行」を吟じた。

初段・二段＝口を良く開くこと気迫が大事。

三段・四段＝視線に注意、目を伏せない。

五段　＝詩情の感じられる表現をするように。口の開け方が足りないと、声がこもって「ア」と「オ」の区別が判然としない。アクセントについては「神」の場合「紙」にならぬよう。

石毛岳象先生

皆さんが一生懸命吟じたことは良いことであった。吟じるためには素読が重要であり、素読百遍、吟一遍と言われるほどで、素読により詩の意味を理解すれば、吟はおのずからついてゆくものである。

（佐久間　岳爽記）

昇伝認許（平成14年4月1日付）

幼一級（一名）
366 広瀬優作

初段（六名）
375 小峰辰夫　373 石渡美恵子　371 須藤敦子　370 佐藤文彦　368 森川正道　372 吉原益己

二段（三名）
367 松木和子　364 山王　亘　357 根岸和子

初伝（九名）
365 大場嘉泉　356 鈴木翠泉　355 湯浅杏泉　351 田沢潤泉　350 柳川文泉　345 佐久本利泉　342 石渡志泉　338 伊藤泰泉　339 三堀涼泉

三段（四名）
341 山口重泉　337 斎藤紫泉　335 島　光泉　334 由谷悦泉

四段（一名）
322 鈴木光泉

中伝（三名）
316 角田有山　314 宗　環山　313 森　律山

五段（三名）
305 中村瑞山　304 熱田英山　303 原　佳山

六段（二名）
296 高橋俊山　363 鴫原隆山

奥伝（六名）
270 森田祐風　268 越水悦風　267 田口綾風　266 中尾邦風　265 河田好風　264 斎須淳風

七段（三名）
241 新井国風　240 田中玉風　236 堤　寿風

八段（六名）
218 斎藤誠風　217 町田紀風　216 池田昭風　215 長谷川幹風　214 下村佳風　210 三木好風

「吟詠家の舞台研究」を聴いて

白井岳麗

去る3月16日、横浜市天王町水道会館に於て開催の講演会を聴講し、講演の内容を左記に抜粋しました。

吟詠家の舞台研究

（平成14年度吟剣詩舞研修会受講資料より）

講師の石川健次郎先生は現在演出家として活躍中ですが、永く日本放送協会にあって、日本古典芸能のテレビ、ラジオ番組を担当し、その間吟詠番組を手がけ、NHKの中でも日本の伝統芸術に造詣の深いプロデューサーとして活躍する。昭和63年、同協会を定年退職し母校の日本大学芸術学部演劇学科講師を勤める。

吟詠は音楽芸術

この20年ばかりの間に、吟詠家の音楽性が著しく向上したことは皆さんも良くご存知のことと思います。

即ち「安定した音程で正しい音階の節を吟ずる」「吟の節付けは、話し言葉のアクセントを重視する」「話の内容を、音楽芸術的に感動を与えて表現する」といったことなどの進歩です。

その結果として、吟詠は音楽芸術として認められるようになり、又それらの発表の場が他の音楽と同じように舞台を中心にした所謂「舞台芸術」の道を歩き始めました。

「舞台」とは芸術を演ずる場所のことですが、その多くは「舞台」に対する「客席」が一対になって「劇場」（集会所）を形作っています。

しかし、いずれの舞台でも多くの人達に見てもらうのが建て前ですから、演者は〃見せる〃〃聞かせる〃という意識が大切です。

日々の鍛練

吟詠家が如何に上手に聞かせるかのコツは

第一に発声と音感の練習を毎日することです。

発生の練習とは「高い声、低い声」「強い声、弱い声」「明瞭な声」を出すためのトレーニングです。音感を養うには、発声練習時に「コンダクター」や「調子笛」を使うと良いでしょう。また師や先輩の名吟を聞いたり、他の音楽でも良いものを多く聞いて正しい音感をつかんでおく事が大切です。

詩の心

「読書百遍意自ずから通ず」という言葉がありますが、まず最初は詩の意味が解るまで幾度もよく読んで、全体の詩心の出し方を研究する必要があります。

吟詠の感情の表現は強い迫力のある詩でも淋しい詩でも、また情緒的なものでも一本調子ではいけません。その主要な部分の幾つかをマークして、その前後を反対に弱くして強弱のタッチをつけます。

もう一つのテクニックは間の持ち方です。詩文の語句の間をいつも同じタイミングで吟じては、味が均一になってつまりません。

感情が盛り上った語句の前などは、意識的に間を取ると、気持のこもった吟になります。

雑記帳のすすめ

東伏見支部　森　合　嘯　風

旅に出ると色んな人に出会う。　それも奇特な人だと大変感動する。この3月中国雲南の奥地の秘境、棚田や見渡す限り菜の花畑をめぐるバスツアーで、暇をみては大判の紙に自書した詩句を小声で暗唱している年配の女性と出会った。何か見せていただけませんかと尋ねたところ「私、書道と詩吟をやっている」と言う。「これは『石童丸』、自己流で汚くしているからお見せ出来ません」と仰言る。それから漢詩、書画、旅のこと、お互いに雑学のうんちくを語り合うことしばしであった。老来物忘れが激しくなったので、こうやって紙に書いて覚えるようにしているという。それにしても『石童丸』の丸暗記は大変ですねと言うと、総て一念発起ですと言う。

私はこれです、と小さな雑記帳を差出す。これには新聞、雑誌、テレビ、本何でもござれ面白い文句、催し予定、為になること、ならない駄洒落の類から金言名句、データまで書きとめたメモ帳である。所々にはスケッチもある。一寸した旅日記でもある。近か場を開いてみると、例えばこんな風である。

○大根辛い、上か下か（タメシテ合点より）

○名士没年（頼山陽52才、一休禅師88才、示寂、段突！他に多くの詩人皆薄命）

○白洲正子記念館ー称して武相荘（武蔵の国と相模の国に、またがっている場所の意とか。小田急の鶴川）

○乾麺を生麺と同じ味に上げるには、前15分間水につける。（ゆで時間はほぼ同じ）

○明治の頃、一葉は冗談を串段と表記した。（漢語の串戯（おどけ）からきている）

○たい焼の魚拓（メスとオスのおどけた差）

○一片の氷心玉壺に在り（唐詩の一節）

○はるか昔、人の暮らしは森と共にあった。

○年寄りに一日はながく、一年は短い。

○真人の息は踵を以てし、衆人の息は喉を以てす（荘子）

○五千年前（三内丸山古墳の頃）日本の人口推定26万人（日本人はるかな旅）

手許の雑記帳の小、大（目下五冊目、彼此れ10年以上書いている）百円ショップで求めたノート。兎に角何でも書くことをすすめたい。脳の活性化に役立つこと必定です。

漢詩の形式

漢詩は西暦八世紀の初め、唐初期の末ごろに完成し、形式が定まり、法則が整った。形式は次の六つとされる。

「近体詩」

絶句　五言絶句（一句が五文字）四句
　　七言絶句（一句が七文字）四句
律詩　五言律詩（一句が五文字）八句
　　七言律詩（一句が七文字）八句

「古体詩」

古詩　五言古詩（一句が五文字）句数自由
　　七言古詩（一句が七文字）句数自由

この六形式のほかに、古詩には何言と決められない字数の不揃い「雑言古詩」があり、絶句には一句が六文字の「六言絶句」律詩には中間の対句がふえる「排律」もある。

また、楽曲の歌詞として、定型をとらず、語数も句数も自由な「詞」あるいは「詩余」と呼ばれる、唐代の中ごろからおこった新しい形式もある。

NHK漢詩への誘いより

俳句

上州の気っ腑色濃き鉄仙花　岩崎岳恵

吊橋のゆらり傾く河鹿笛
ほととぎす胸晴るるまで高啼けり　西岡晴岳

岩の間に土筆の意志を見つけたり
山裾の鐘楼隠すしだれ桜　石黒恵岳

老梅の枝影踏みて月の道
園児らの甲高き声草萌ゆる　斎須淳風

客を待つ骨董店主春炬燵
若人のウィーンへ旅立つ花の中　上野花山

四方の山ほのぼの煙り花の雨
海風に絵馬が奏ずる花の寺

入会（4月1日）

387 千野（チノ）勝（マサル）　横須賀市林一－二－三
（逗子A）☎〇四六八－五六－一九九六
紹介者　川瀬浩岳

388 大池（オオイケ）保（タモツ）　大田区蒲田本町二－二一－八
（滝の坂）☎〇三－三七三六－三一三六
紹介者　行谷隆風

389 高橋陽一（タカハシヨウイチ）　逗子市小坪四－九－二四
（逗子A）☎〇四六七－二二－九〇四八
紹介者　松井正岳

移籍

9 杉山岳雪　堀内支部より風早支部へ

退会（2月1日付）

32 佐藤岳初（堀内A）
277 牧野江山（真澄）

退会（3月1日付）

315 岸川芳泉（唐木山）
344 河原キヌ子（逗子B）
358 小川晃（逗子A）
213 二戸部勝風（悠吟）
203 松下光風（若葉）

編集後記

今年は3月の末に桜が咲き始めて4月には葉桜になってしまいました。5月19日は待望の65周年記念大会です。周囲を見ると風邪を引いている人の多いこと。季節の変わり目なので、大会までには治して、当日は全員が元気に楽しく、実力を発揮できるようになれば素晴らしいと思います。

千葉会長の指導の下に、リハーサルや本番に向けて悔いの残らない大会になるよう、全員一致で頑張りましょう。